

平成 30 年 6 月 8 日(金) 市長定例記者会見 会見録

【市長】

まず映像をお見せするんですよ。

今日は、今、広報課長がおっしゃった通り、報告 1 件と話題提供 1 件であります。

話題提供の方、「歴史文化づくり」、新しいことが割とあるものですから、こっちの方こそ、私の意図とすると時間をかけたいでありますけれども、しかしながら SDG s の方、皆さん関心あるかと思うので、あえて報告という形で、今日冒頭、皆さんに映像をご覧いただきたいなというふうに思います。

私自身、土曜日の夜に帰ってきて、月曜日から、今度、全国市長会で昨日まで東京におったんです。なので、電話連絡等々で色々指示は出しているんですけども、どのくらいのことが準備されているのか、実はまだ若干心配はありますけれども、6 分半くらいに先週、3 泊 5 日という、強行の弾丸ツアーのスケジュールで、アメリカニューヨーク国連本部でのセッションに臨ませていただきました。

東京で、私拝見したんですけども、静岡新聞さん、特集記事を書いてくださいます、本当にありがとうございます。厚く御礼を申し上げたいというふうに思います。一番、記者の皆さんに、今日お願いしたいのは、静岡市民の皆さんに「SDG s」という言葉とその意味あいを知って欲しいということで、その理解を促進するような、そんな橋渡しを是非お願いをしたいなと思います。

記者の皆さんには釈迦に説法と思いますが、私たちが 3 次総の中で掲げている安心安全な、静岡にいれば不安が安心に変えられるような、社会環境、5 大構想を提供して、進めていきたいよ、という 3 次総のいわゆる理念と、SDG s が 2030 年までに、地球をこういう理想的な国際社会にしたいと。例えば、「飢餓をなくそう」とか、「安心安全な水とトイレがあるような地球にしていこう」という理念というのは、全く一致しているんですね。

だから、私たちが静岡市でやろうとしていることと、国連が世界を対象にやろうとしていることというのは、一緒なんですね。

目標年限が、私たちは 2022 年、対象が静岡市。あちらは、目標年限が 2030 年、対象が地球。というだけであって、その理念というか、やろうとしている方向性、どういう社会を作っていこうという国連の 17 の目標と、我々の 5 大構想の目標、3 次総の目標というのは、全く同じ方向性だということに、私は改めて気がついて、驚いたわけがあります。

そういうことを、私は感じて帰ってまいりました。ただ、日本人にとっては、静岡市民にとっては、1 万キロ離れたアメリカのニューヨークの国連本部がやっている SDG s。これが、アルファベットですのでね。雲をつかむような話で、親近感が全然ないわけですよ。「SDG s って、市長が一生懸命やっているけど、これなあに。我々の生活には関係ないでしょ」というような声というのをたくさん聞いているわけですね。まちづくりセッション 11 回のうち 4 回やりましたよね。冒頭にね、ところで SDG s ってご存知ですか？って聞いてみても、

200人のうち10人手が挙がるかどうか、というのが現状です。これ、日本全国どこも同じですね。世界各国もだいたい同じようだというふうに、報告が国連でありました。

だから、そのところの認知度を上げる、そして、そのSDGsを国連が、世界が、目指しているということを静岡市民にも共有化してもらって、じゃあ私たちの責任分野の静岡市において、そういう社会を作っていこうよ、官民連携してやっていこうよ、という一つの世論にしていきたいな、というのが、私が帰国してからの思いでありますのでね。

まず、SDGsを身近なものにしていただきたい。あるいは、SDGsを推進するということ、私たちの生活そのものを良くすることに繋がっていくんだと。私たちの生活実感の上でも、大きなSDGを進めていくということが、私たちの暮らし向きも良くなるということなんだよ、そういう思いになっていただければ嬉しいなあというふうに思っています。

そのためには、マスコミ、メディア、報道機関の記者の皆様の記事、あるいは番組というのは、すごく大きな効果といいますか、役割を果たしていただけることだというふうに思いますので、ぜひ、このことについて正確に私たちの意図をお伝えいただきたいな、報道していただきたいなというふうに思います。

ですので、まず記者の皆様に理解をいただきたいので、後ほど、質疑応答の時間も設けますけども、まず映像で何をやってきたかということをご覧いただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

(映像放映)

【市長】

はい、どうもありがとうございます。

映像見てもらっている途中に、当日のアジェンダペーパー、国連事務局が発行したアジェンダペーパーを配付をしました。これは、私が持っていたもんだから、翻訳してないんだけど、皆さんだとだいたいよくわかると思いますけども。これを、いわゆる国連の内部にばらまいてくれて、そして、当日、関心のある国連の職員に傍聴してもらった、というようなアジェンダペーパーになる訳です。このトピックスのところに、「表の2番目」ですね。トピックスのところに、三つ「この会合の目的」記してあるんですね。

一つは、SDGsの地方自治体レベルでの取り組みを、日本では「どうしてるか」ということですね。「Promoting the SDGs at a municipal level」ですね。

次は企業が、自分たちのビジネスのために「SDGsをどう活用しているか」という取り組みについてですね。SDGsってボランティア活動じゃないんですよ。そうじゃなくって、企業にとっては「企業利益のためにこれをやっておいた方がいいよ」ということの理解が必要なんですね。つまり儲かったお金でメセナでCSRをやる、ボランティア活動をやる、っていうんじゃないんです。SDGsに取り込むこと自体が、自分たちの社業の発展に役に立つということです。

シャンソンさんが、今回、一緒に行かれたわけなんですけども、やはり、10代、20代の若い女性をターゲットにして、新しい商品を開発をしていこうということで、プロジェクトチームを発足したということです。その取り組みについて、プレゼンテーションを川村会長がされたわけなんですけども、そう言うことなんです。

三つ目が、「17の目標」ありますけども、とりわけ今回は、4番目の目標である「ジェンダー・イコルティ」。ここに焦点を絞って、それぞれのステークホルダーは、どんなことをやっているのか話していただければ嬉しいという論点をいただきました。

私たちは、女性が活躍しやすい静岡市の環境をどう提供していくかということで、子育て支援から始まって、来年SDGsの認知度を高めていく武器として、東京ガールズコレクションを誘致したよ、というような取り組みを紹介したと。この三つがトピックスだったわけですね。

そこに、大きく分けて三つのグループ、「自治体」これは福井県の鯖江市と静岡市、それに取り組んでいる「企業」のグループ。そして、それ以外のNGO、NPOの皆さん。三つのグループが集まって、そして、主催が国連事務局の国連パートナーシップ事務所というところがプロデュースしたということです。国連本部、行かれたことありますか？皆さん？

市立美術館なんかもミュージアムショップってあるじゃないですか。つまり、お土産屋さんね。国連の訪問者に対するUNショップというのがあるわけですね。国連関係のお土産と言うか商品がたくさん。その中心はSDGsです。国連全体がSDGsの推進っていうことで、例えば、この私がよくつけている、今日つけて来なかったけども、カラーのね、マークのピンバッチから始まって、いろんなSDGsの関連商品って、一番いいところに置かれている。つまりSDGsの推進って、今の国連の一押しではあるんです。

ただ一方、記者の皆さん「国連」って、どういうイメージを持っているか。日本の教科書で学ぶと「国連」って、何か平和を創出しているとか、安全保障機能するという、国連に対して、ポジティブな、いいイメージを持っている方が多いと思うんです。ただ、「国連」って、そんな甘いもんじゃなくって、巨大な行政組織、官僚組織なんですけども。「Low politics」のレベルの、例えば、ユニセフとかユネスコ。ここはね、人道的なことたくさんやっているんです。でも、Higher Level、High politicsになればなるほど、もう権謀術数と各国の駆け引き、シンガポールで米朝の会談って駆け引きやっていますけども、とにかく各国の国益国同士がぶつかり合う、大変なこの権謀術数の駆け引きの場なわけですね。

とにかく、総会でもそうですし、安全保障理事会、いわゆる安保理でもそうですし、経済社会理事会でもそうですし、そう簡単なものではないという、現実政治、Real politicsが渦巻いているというのが、国連なわけです。その中の事務局事務総長が、所属している事務局が、今回の主催なんです。ただ事務局権限が、国の内閣府が、どれだけ権限があるか分かりませんが、弱いですよ。弱いです。でも、ここは、一番国連の創設の理念を持っているわけですね。つまり、「第二次世界対戦を再び引き起こさない」という理念を持っている。ただ、その中で、国連事務局のグリップ力が弱いけれども、しかし、事務局機能はもってい

る。

そして、今度チャウドリー大使というチェアマンをやってくれた人は、その国連の事務総長のナンバー2、国連事務次長の経験者なんですね。「自分は、国連総長の選挙に出る気はない。政治家には向いてないけれども、でも、行政マンとして、とにかく国連の理念を支えるんだ」という非常に良心的な信念を持った方が、このチャウドリー大使で、今回の会議の主催者でもあったわけですけども。

国連の内部はそういう権謀術数渦巻く世界だから、じゃあ、国連事務局として、「何をやらなきゃいけないか」というと外部の人達と知り合いたい。外部の人たちのネットワークを作りたい。パートナーシップを作りたい。ということで、この国連事務局の中で、これもね、関心があったら、国際連合の組織図です。これも、またちょっと配っていただければありがたいんですけども。国連事務局総会安保理経済社会理事会司法裁判所とともに、事務局というのは、主要機関の一つなんですけど。国連事務局に所属して国連パートナー事務所を作ったんですね、UNOP というのを。

ここが、外部の団体とのパートナーシップの窓口なんですね。それが自治体であったり、企業であったり、NGOであったりするわけですね。この人たちを味方にして、自分たちの声を大きくしたい。そういう機能を持っているんですね。つまり僕らは利害ないじゃないですか。自治体、SDGsの推進とって、世界平和のために、というふうにやっている。これを、国連の中に入れてくっていう機能を持っているのが国連パートナー事務所。少しでも、自分たちの影響力を国連内部の中で存在感を示したいということですね。それに、私たちは外部から招かれて行ったということです。

端的に言いますと、地雷除去キャンペーンってやっていますよね。あの地雷一つ作るのに5ドルなんだそうですよ、つまり600円。それに対して、地雷を一つ除去するために、いくらかかると思います？11万円かかる。つまり兵器を作るためには600円なんだけど、その兵器を除去するためには11万円かかると。世界の現実ってそうなんですね。一人の人間の気持ちの中にも、仏心と鬼心ってありますよね。「みんなと仲良くしたいって気持ち」と、「あの野郎、気に入らねえ。喧嘩したいって気持ち」と二つあるわけですよ。

だけど、残念ながら人間というのは、対説するとか、そういう気持ちの方が感情の方が理性よりも感情の方が出てくる。だから、世界の軍事予算と平和予算って、このくらい開きがあるんです。100倍以上。軍事に各国お金かけていて、平和にかけるお金はその程度なんですね。その中で孤軍奮闘しているっていうのが、こういうことなんですね。そういうことを前提に、今回やってきたというつもりです。

今日、事務局が用意してくれた原稿でありますけれども、私とすると3次総で掲げる5大構想にSDGsを組み込んでいること、「しずおか女子きらっ☆プロジェクト」など女性の活躍を推進していること、SDGsの普及啓発を重点的に行う期間を設定し、様々なステークホルダーと連携しながら進めていくことなどを説明した上で、2%、これは、市内の20代及び30代の女性を対象に行った認知度調査で、SDGsを「知っている」と回答した割合

ですが、その向上を図っていくことを表明しました。その表明に対して、国連関係の参加者からは、称賛の声とともに、大きな期待が寄せられました。

また、議長であるチャウドリー大使からは、日本のモデルとして静岡市の取組を国内で広げて欲しいといった旨の発言があったほか、その成果について改めて国連に報告することが求められました。

さらに、国連が主催するSDGsに関する他の会議等へ参加し、静岡市の取組を世界各国に紹介して欲しいという依頼もありました。

日本では認知度が低いSDGsですが、つまりSDGsはできるか、できないかではなく、やるか、やらないかが重要だということが、各国、各参加者、一致した意見でありました。ひとつひとつの小さな取組が、大きなうねりにつながっていきます。

静岡市のSDGs推進の取組を通じて、日本全体のSDGsを牽引していきたいと考えております。今回、得られた静岡市と国連とのつながりを大切にするとともに、連携をさらに強化し、世界水準の都市として「世界に輝く静岡」を発信してまいりますので、取材方よろしくお願いを致しますということです。よろしくお願いします。

では、二つ目の話題。「着々と歴史文化の拠点づくり」というところに入ります。

一方、これも一つ、「3次総」と「5大構想」と「SDGs」ということを伝える中で、静岡市がどんなまちづくりをしたいかというビジョンを説明するという目的で、まちづくりセッションを11回計画していて、4回終わったわけですね。

ただ、今まで4回やったうちで、やっぱり歴史文化施設、駿府城の再建、これ関心高いということがわかったので、今日、改めて皆さんに、このことについて新しいことも含めて、今日初めてお伝えをすることも含めて、この歴史文化拠点づくりについて、どんな考え方の下、これからどんなことをやろうとしているのかということについて、お話をしたいと思っています。

まず、明日、土曜日からは、静岡市と文化振興財団主催の歴史文化施設 プレ展示「静岡発 近代日本の始まり」を始めます。

そして、来週16日の土曜日には、パネルディスカッション、設計にあたってくれる（建設設計者）SANAA(サナア)事務所の妹島和世(せじまかずよ)氏、西沢立衛(にしざわりゅうえ)氏と私も参加して、パネルディスカッションを行います。

一番のポイントは、市民参画型でこの歴史拠点づくりを進めたいということです。

行政主導ではなくてね。ありがたいことに、「一人の百歩よりも一人の一步ですよ」と、僕はいつも言っていますよね。

セッションにも参加してくれる市民がいる。このことについても、参加してくれる市民の裾野が広がってきました。例えば建築士事務所協会の皆さん、例えば青葉小学校の卒業生の皆さん、やっぱり自分の母校があったところに作るわけですので、関心が高いわけですね。そういう市民有志がいろいろな声を上げてくれるようになった。それが、私にとって一番嬉しい

ことであります。

17日の日曜日には、青葉小学校卒業生の皆さんが主体となって、生まれ変わりの文化祭と題する、そういう催しを開催してくれるということでもあります。

つまり、もう母校がこれから取り壊されるわけですから、物理的には、物的には、その自分たちの学んだ校舎がなくなっちゃうわけですね。でも、それを後ろ向きに考えるのではなくて、生まれ変わりの、新しい未来に向けて、静岡の歴史を世界に発信をする歴史文化施設に生まれ変わっていくってことを前向きに捉えて、その静岡市のこれからについて語らう一日にしたいという趣旨で行われるというふうに伺っております。

このように多くの皆さんが、市民の皆さんが主体的にまちづくりに参加しはじめていることは、まさに、歴史文化のまちづくりへの歩みが始まっているということで、大変心強く思っています。

セッションでもね、「彰往考来」、「歴史を振り返って未来を展望する」というテーマで行っていますが、まさにそのシンボリックな事業であります。

基本設計について、あんまり実務的なことは、担当者から聞いていただければいいんですけども、巽櫓の隣地ですので、城内には城内なんですね。なので、巽櫓を殺さないような設計をしてくれと。つまり、巽櫓を圧迫するようなことにならないように、だから、あんまり高くならないように。つまり、高さは可能な限り低く抑えつつ、しかも、現存する石垣とお堀を活かして、その建物とその街並みが一体となることで、セノバからお堀の桜を眺めながら、城代橋を渡ると自然にこの歴史文化施設、建物に足を踏み入れてしまう、そんなイメージになるような設計をお願いしております。

そして、中のコンテンツは三つであります。

一つ目は、「家康公の一生と大御所時代の駿府」

二つ目は、「家康公を育んだ駿府と今川氏」

そして、三つ目が、「東海道と駿府城下町の変遷」

これによって構成されます。3つのテーマをつなげるものとして、家康公の人生を象徴する静岡浅間神社と久能山東照宮所蔵の甲冑を配置します。来館者は、あたかも徳川家康公に案内をされるように、導かれるように、各テーマの展示に進んで、静岡の歴史について知っていただきたいと思えます。

本日、初めて公開するのは、実は、広報静岡（広報紙）の7月号に特集を組んでいますけど、記者の配付資料の1枚目の裏側ですね。「(仮称)静岡市歴史文化施設の基本設計が進行中！施設外観イメージビフォーアフター」ってありますね。

そのページの中ほど、オレンジ色のところに書いてあるように、たとえば、家康公の一生と大御所時代の駿府ってこんな感じの展示室というイメージを考えています。手前にある甲冑が元服式、15歳の時に着た甲冑です。このオレンジ色っぽいやつね。で、向こうに大きな扇子とともに展示されているのが、関ヶ原の合戦の時に持っていった甲冑です。

これは、本人、着ていません。戦わずして勝つということで、これは、実際に着ることなく

持って行っただけという逸話が残っている甲冑でありますけれども、そのビフォーアフターの甲冑を対象にしながら、展示室を作っていくというふうに考えています。

一方、屋外展示の一つとも言える駿府城公園内の天守台発掘調査も順調に進んでいます。これも初めてなんですけども、今の資料の右側、「平成30年度駿府城で体験発掘」、これ今年、最後です。去年やって約1,000人の方々に体験発掘をしてもらったんですけど、大変好評でした。とりわけ市外、県外の方々が約6割でした。1000人中の。なので、歴史ファン、あるいは城郭ファンの方々が、体験発掘をして、インバウンドでも大きな効力を発揮しましたので、今年最終年なんですけども、体験発掘をしていただきます。

そして、これはバージョンアップするんですけども、下段の「発掘調査特別体験見学会」ということも、今年はバージョンアップして行きますので、是非PR方よろしく願いいたします。今年はね、ピラミッドに行った方がいて、それがモチーフになっているんですけどね、いかに、駿府城を作るのが当時の技術で大変だったか、重労働だったかということを感じてもらおうという工夫を込めた体験見学会を、歴史文化課が、今、立案をしてくれております。

例えば、写真が3つ載っていますが、石引体験をしてもらおう。これ、石引体験というのは、大きな石を上に乗せなきゃいけないわけですね。ここに、線路みたいなものがありますよね。これ、「しゅら」っていいです。しゅらしゅしゅしゅの「しゅら」ですね。こんぴらさんの歌に出てくる。これがあることによって、丸太がまわって重い石がみんなで行けば上に上がってくという。あるいは、石担ぎ体験や石負子、実際に石垣を持ってもらって、そして、それを積んでもらうということを感じてもらおう。こんなことを今考えています。これも、是非多くの皆さんに参加をしていただいて、歴史文化の拠点づくり、駿府城の再建に向けて世論の喚起につなげていきたいというふうに思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

他にも、歴史文化の拠点と位置付ける駿府城公園周辺では、ラン&リフレッシュステーションのオープンや葵舟の就航実験など多種多様な事業を展開しています。官民が連携し、みんなの力で、歴史文化のまちを創り上げていきたいと考えています。以上です。

【司会】

はい、それでは、ただ今の発表項目、歴史文化の拠点づくり、ご質問がある方はお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

【朝日新聞】

今の7月の石引き体験、これ本当に上り坂をやるんですか。

【市長】

やると聞いています。

【朝日新聞】

危なくないですかね。

【市長】

ちょっと待って。正確にちょっと担当者に答えてもらいます。

【歴史文化課長】

当日、発掘調査現場でやります。石垣の前の広場でやりますので、実際には坂道にはならないです。すみません。

【市長】

安全確保を考慮しなければいけないということですね。記者、よろしいですか。

【司会】

よろしいですか。それでは続きまして、代表質問はよろしいですね。

それでは、その他、各社のほうからありましたら、お願いしたいと思います。いかがでしょうか。

【市長】

SDGsでもいいですよ。

【NHK】

すみません、SDGsのことになってしまって恐縮なんです。

【市長】

いいですよ。結構ですよ。

【NHK】

先ほど、取組みの内容とかを国連でスピーチなさったとおっしゃっていたんですけども、内容がちょっと、さらっといつてしまったかなど。もう少し具体的にですね、静岡市の施策をどういうふうにご紹介なさったのかと。今後のですね、市の施策に、どういうふうに、牽引したいということもありましたけど、どういうふうに反映していくおつもりなのか、その辺をお聞かせいただければと思います。

【市長】

はい。どうも、ありがとうございます。

まず、私は、静岡市が世界の SDG s のモデル自治体になりたいという決意のもとで、まだ着手したばかりだけれども、3 次総の中の 5 大構想をリーディングプロジェクトにしなから、その 3 次総に、SDG s の目標を組み込む作業を終えて、これに取り組んでいくという説明をしました。

具体的に言うと、例えば、先ほどの歴史文化拠点、3 次総ではね、静岡の歴史を紹介をし、そして、多くの来街者に来てもらうこと、交流人口を拡大すること、インバウンドを増やすこと、これを目的に、あくまで静岡の地域経済を活性化したいっていうことで、歴史文化の拠点づくりをするっていうのが、3 次総の作りこみだったんですね。

それを SDG s と結びつけると物語が変わるんです。理念が大きくなるんですね。

つまり、この駿府城というのは、長かった戦国時代を終わらせて、世界史的にも大変稀な、一国の中で 260 年の平和な日本を築き上げた徳川家康公の居城があった場所なんだと。

「パックス・トクガワナ」ってよく言われますが、徳川による平和ですね。あの、小和田先生がよく使う言葉ですけども、を築き上げたリーダーなんだと。だからこそ、この家康公が築き上げた駿府城がある静岡市から平和を発信する、世界平和を発信するという事業をやっという、そういうアピールをするために、世界に平和を発信するために歴史文化拠点づくりをするんだよ、という見せ方になってくるわけですね。

全てそうなんですね。清水も、街の作り変えを産業構造の変化に伴って、これからしていきます。そして、そのシンボル施設として日の出地区に海洋文化施設を作っていくわけですね。JAMSTEC さんと東海大学海洋学部さんと。ただ、その 3 次総の中では、これを作ることによって、例えば、クルーズ船のお客さんの清水での滞在時間を長くする。そして、来街者を清水に増やす、御殿場に行っちゃうんじゃなくてね。

そうやって地域の経済の活性化に資するという意味合いなんですね、3 次総の枠組みでは。でも、それが SDG s との結びつきの中では、いや、そんな小っちゃなことではないよと。この海洋文化施設っていうのは、太平洋の海を保全するために作るんだと。去年、モントレールに行ってきましたけどもね、モントレールの水族館の向こうを張って、とにかく海洋資源を保全するための研究施設として、この海洋文化施設を SDG s 推進のために、我々静岡市は整備するんだと。こういう形になるわけですね。

これが SDG s の 17 の目標に繋がるわけですね。で、そういうことを今やっているよと。つまり、着眼大局、着手小局でやっているよと。

今回、つくづく感じたんですけども、国連もね、なんかすごいことやってるなというイメージが、皆さんあると思いますけども、やっぱりね、兵隊がいないと、踊ってくれる人がいないとね、どうしようもないわけですよ。絵空事になっちゃうんです。絵に描いた餅になっちゃうんですね。

そういう意味では、国連はこれを策定しました、だけれども、実際に各国、そして各国の中でも去年、日本政府は自治体にこれ頼むよと呼びかけたわけですけども、それぞれの地域がこ

のSDGsという理念を理解した上で、まちづくりに反映させてくれないと、絵に描いた餅なわけですね。

なので、私たちはモデル都市になる。それが私たちの市民の生活を良くするためにもなるんだよ、というふうに説明をすることによって、私自身ね、よくSDGsをやっているとそんなの関係あるの、私たちに、もっと身近なことをやってくれよというような批判をもらいがちなんですけども、そうじゃないんだよと。こう大きなストーリーの中でSDGsをやる、そして、国の資金や大きなお金が入ってくるということによって、市民の生活が良くなるんだよと、リアリティのある話なんだよということを、今度、市民の中に伝えていくということが大事なんだということをやっていきたいと思っています。

この国連のパートナーシップは、国連の友アジアパシフィックというNGOがあって、そこがこう、橋渡しをしてくれたんだけど、日本のインプリメンテーションについて、今回は、プレゼンテーションの機会をくれたわけですね。

世界各国のSDGs、まあそれなりにやってるねっていう国を招いて、やっているわけです。今回は、日本はどうやってSDGsをやっているのっていう設定の中で、今回、私は役割を果たさせていただいたと。

だから、これ世界190か国、どの国の実施状況を、この国連事務局のパートナーシップが窓口になって、これからやっていくということなんです。

そして、お互いに参考にしていこうというようなことですね。今回は日本に白羽の矢が立って、私が行く機会に恵まれたということです。

【司会】

だいぶ時間の方も迫ってまいりましたが。引き続き、はい、中日さん、どうぞ。

【中日新聞】

SDGsのことについて、関連してお伺いしたいと思います。

まず、市長、改めてですね、今回の取組を報告してほしいみたいな話が先方の方からあったということ、先ほど、おっしゃられましたけれども、今後どういうふうに、今、思いとして、こういうふうに訴えていくんだというお話がありましたけれども、今後どういうふうに、何か伝えていこうというふうにお考えかっているところは、どうでしょうか。

【市長】

市民に対して？それとも国連に対して？

【中日新聞】

国連に対してです。先ほどの話は市民に対してって話でしたけれども、国連に対しては今後どういうふうに伝えていくんでしょうか。

【市長】

国連に対しては、定期的なここまでやったよ、あそこまでやったよ、今回、人間関係ができましたのでね、国連事務局ともね、報告をしていきたいと思っています。

【中日新聞】

定期的になって、1年とか2年とか。

【市長】

それは、これからちょっと議論するところですけども、まあ、定期的にということで、口約束はしてきました。

【中日新聞】

それから、先ほど、市民に対して訴えるという話でしたけれども、SDGsの視点でという話と、いわゆる経済的効果という話と、2つメリットがあるというお話でしたけれども、市民の方からすると、なかなか、我々こういう機会を設けていただいているんで、わかると思うんですが、市民にとっては、なかなかよくわからない、なんだかよくわからないっていうふうな受け止められかねないような気もするんですが、その辺りいかがですか。

【市長】

その通りだと思うんです。だからこそ、セッションでね、なるべくわかりやすく市長の口から直接ね、なぜ3次総とSDGsを結びつけるのかという説明をしつつ、それが市民の、例えば、子育て支援にも直接的に役に立つんだよということを伝えていきたいと思います。で、特に今回は、ジェンダー・イコルティ、ここを話題にしてくれということなので、そこを、私、演説をしてきましたけども、例えば、待機児童ゼロになったじゃないですか。子育て支援を3次総のプログラムの中で、精力的に予算も使ってやってきたわけですよね。で、これからそれもやるよと、これから学童保育もやっていかなければいけないよ、放課後児童対策もやっていかなければいけないよと、そういう環境整備とともに、そうやって環境を作って社会に進出する、今日も女性記者の皆さんたくさんいらっしゃいますけども、女性が社会を担っていくといったときに、その方々に光を当てるプログラムをしていきたいよという取り組みも、今、やっているわけですね。それが、いわゆる「女子きらっプロジェクト」ですね。女性が開発した商品を顕彰するとかいう制度もやっている。ただ、この分野もね、ジェンダー・イコルティだって、SDGs、何かっていうことさえわからない。特に、若者がまだSDGsということについて、理解をしてもらわなければいけない。これからの社会を担う方々ですからね。特に女性、やっぱり意識を作ってもらわなければいけないわけですね、10代の女性に。

やっぱり結婚して専業主婦っていうようなね、そういう固定的なね、伝統的な問題ではなくって、よし！と、自分が将来的にマスコミで、記者になってバリバリやるぞってっていう意識を作ってもらうには、そこにターゲットをもっていかなければいけない、っていう意味でTGCを今回、活用するということですね。

おそらく、大半の若い女性は、SDGsは関係ないと。とにかく、香里奈ちゃん来るから、山田優ちゃん来るから、とにかくTGC、ツインメッセに行くという意識で来ると思うんです。

でも、これ今回初めて、「SDGs推進TGC」というふうに、W-TOKYOの村上社長が銘打ってやるわけですね、初めてね。

で、そこで初めて、「あれ？東京ガールズコレクションに来たつもりだけれども、何？SDGsって？」というふうに、きっかけになると思うんですね、きっかけになる。

それでいいと思ってるんです。ああそうか、と。SDGsって国連がこんなことやってるの、そんな中で男女共同参画社会を作ろうっていう目標があるんだねと。あ、それと静岡市がタイアップしているんだねと、そういう基本的な情報だけ、若者にね、理解していただければ嬉しいなと。

なので、初日を1月3日に設定しています。1月3日にグランシップで、成人式やります。1月3日に初日。ここで、一部はね、式典でね、とにかく市長の式辞とかやるわけですね、元服式ですからね。日本の伝統的な振袖ね。そこは厳粛にやるんですけどね。第二部は、SDGs関連のね、モデルにも来てもらおうと思っているんです。ランウェイを作ろうと思うんです。成人式の実行委員会の学生たちが、今、そんなふうにやろうと、キャーキャー言っていて、準備をしてくれているんですね。

だから、そこで皆さんにも協力してもらって1月3日からドンと、SDGs推進ウィークとやって、毎日、毎日、SDGs関連のそういう催しを市内各所で展開して、フィナーレ、千秋楽がTGCというふうに持ってくと。昨日だったかな、静岡青年会議所も、SDGsを子どもたちに理解するためのカードゲームの普及を今やってくれているという事なので、これも大きな大会のその期間中に設定をしていますし、手を変え品を変え、SDGsを普及するというのを、ここに集中して、そして、この期間は静岡市全体をSDGsで一色に染め上げると。それで、認知度グッと高めていきたいと、今、認知度2%なのか5%のか分かりませんが、50%ぐらいには引き上げたいというふうに、私、大見得を切ってきましたのでね。頑張らなきゃならないなと思ってます。

【中日新聞】

それ、国連でおっしゃられたんですか。

【市長】

(うん。)

【中日新聞】

わかりました。改めて決意としては、演説の中では、「世界のモデル自治体になりたいという決意のもと」ということですが、その想いは今も当然変わられていないと。

【市長】

はい。

【中日新聞】

ということで、それに向けて直接説明をするという機会を設けられること、それから1月にやっていくことの2本柱ですね。セッション自体は、7月で終わりですが、とりあえず日程は。その後も、市長の口から直接説明するような機会は設けていきたいというお考えでよろしいでしょうか。

【市長】

そうですね。国連関係者に、静岡市のプレゼンテーションに対して本当にお褒めの言葉をいただきました。あとのレセプションなんかね。

なぜかと言うと、実際にやっているからなんです。実際に、子育て支援についてもやっているし、TGCを誘致してやっていこうとしているわけですね。実際にやっているから説得力があるわけですよ。歴史文化拠点も、実際に始めているから。

だから、「これからやります」というそういうプレゼンテーションじゃないものですからね。実際、「今もう、始めてますよ」と、更に、これを皆さんの力もお借りして、大きくやるというところが説得力があったんだろうなというふうに思っています。

本当にこれは、市のそれぞれの局の担当者のおかげさま。さっきの広報の映像も、僕が今週、市長会（東京）に行っている間に一生懸命やってくれたと思いますが、本当に各局が私の一つの大きな施政の方向性に向けて、実際に地道な作業してくれているおかげでね、そんなプレゼンテーションができたなと思いますし、また、それを市民の方々が協力してもらえると、いう体制ができれば嬉しいなというふうに思っています。

【中日新聞】

3次総の中で、訴えていかれるということですが、実際に、田辺市長がおっしゃられていることが形になるのは、もう少し先になるかと思います。

【市長】

今も形を示していますよ。

【中日新聞】

もちろん、示されていると思うんですけども、実際に、今おっしゃられた歴史文化拠点にしろ、海洋文化拠点にしろ、少し先の話になると思いますけれども、市長はそこら辺も含めて、その将来的なところも考えられた上で、今後もSDGs推進に取り組まれるということでしょうか。

【市長】

おっしゃる通りですね。

あの「千里の道も一歩から」ですのでね。歴史文化拠点の作りで駿府城の再建というのを大きな目標にしながら、中長期的な目標にしながら、まず第一歩は葵舟の実証実験ということなるわけですよ。

【中日新聞】

来年4月には選挙戦もありますけれども。

【市長】

どなたが市長になろうとも、一つの大きな方向性を示していかなければならないと思うし、4年間で財政の担保だけ考えた上では、市民に夢を与えられるようなビジョンを提供できないってのが、僕が市長をやってみての実感なんですね。

その時に、もう少し中長期的にね、12年後なんですよ2030年。12年前って郵政民営化の頃ですよ。2005年、ほんのこの間じゃないですか。だから、そんな遠くじゃないんです。2030年とはいえ。でも2022年で3次総は終わっちゃうわけですよ。僕の任期は今年で終わりなんですよ。

でも、ここだけ、近視眼的にやっていると、制約がたくさんあるわけですから、予算の制約、時間の制約。だから、SDGsと合わせて、2030年の静岡市の姿はこうあるべきだって、僕、ビジョンのもとに、そしてバックキャストで、じゃあ、今何をやるかという発想でやっていると。もう、2030年に僕が市長じゃないですよ、もちろん。もちろんないですよ。だけれども、そのくらいの中長期的な発想で市長はビジョンを掲げて、「まちづくり」をしていかなければいけないというのが私の信念であります。

【朝日新聞】

お願いがあります。

今日のこの資料でも、さっきの家康の鎧が出てきましたけど、これが多分、国の重要文化財だと思うんですけども、それから、いつ来たとかですね、そういう基本的なデータをですね、書かれていないと。要するに、あの市長は常々、情報発信強化とおっしゃっていますけれど、最近、この手の市から出る報道資料ですね、5W1Hが整ってない。それから、肝心

なことが書いてない。それから、間違いがあるとかですね、係長も課長も見ているのかどうかっていうクッションみたいなことを散見されますので、市長もお忙しいでしょうが、暇な時、サンプル抽出じゃないですけど、ちょっと見てですね、あのこんなものでいいのかなという我々の思いを共鳴、感じ取っていただきたい。要するに、簡潔、わかりやすく、ポイントを的確に捉えた資料を出してほしいと、そういうことです。

【市長】

恐れ入ります。ベテラン記者からそういう指摘をいただいたということは真摯に受け止めたいというふうに思いますので、政策官、あのそのことについて各局、指示よろしく願いいたします。

【政策官】

市長から、本当に情報発信を強化しようということを常々おっしゃっておりますので、その辺、職員ですね、心して、これからも取り組んでいきたいと思えます。以上です。